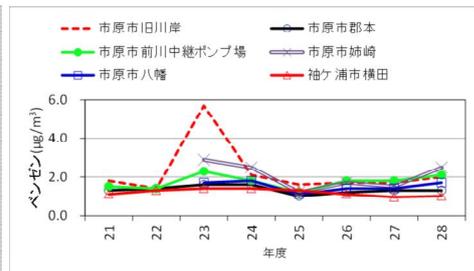
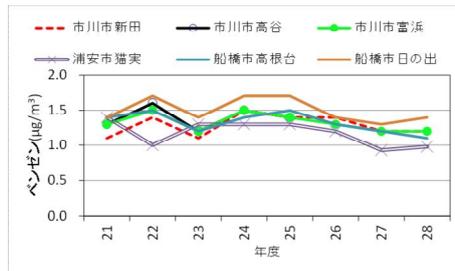
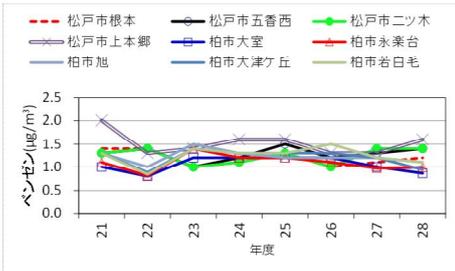
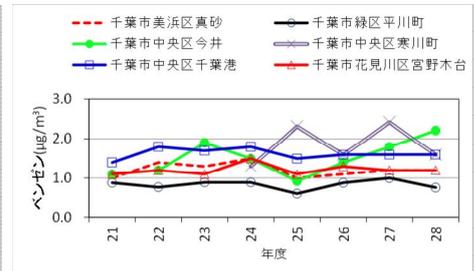
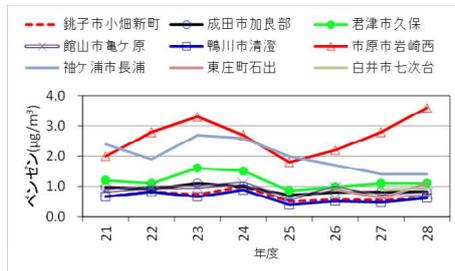
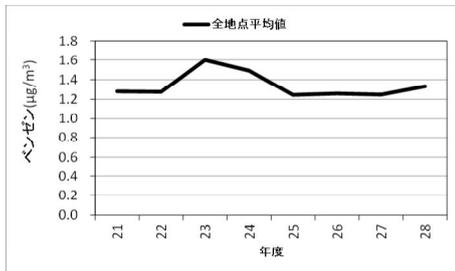
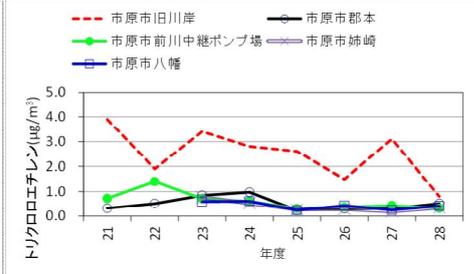
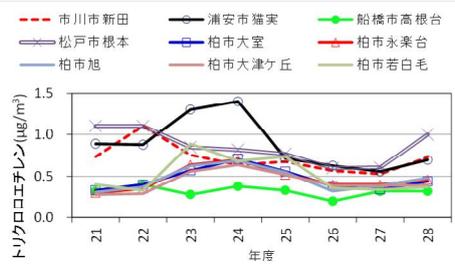
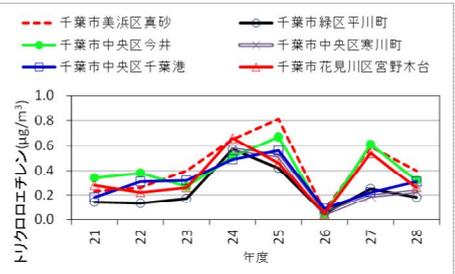
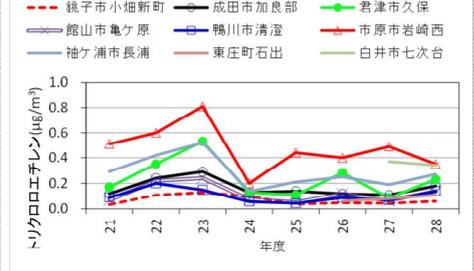
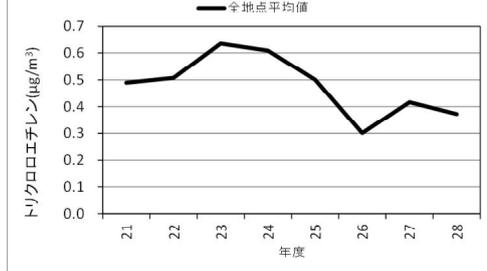


環境基準が設定されている4物質の経年推移(測定実施機関毎にグラフを作成)

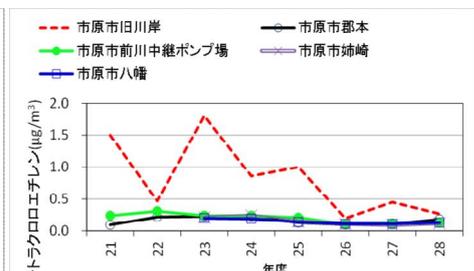
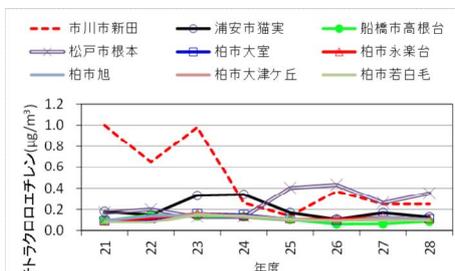
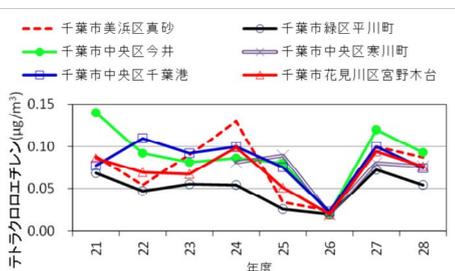
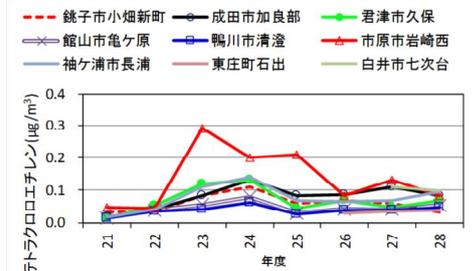
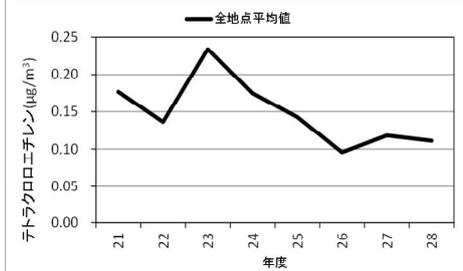
ベンゼン:全地点平均では平成23、24年度が若干濃度が上がったが、平均的には $1.2\sim 1.3\mu\text{g}/\text{m}^3$ で推移した。地点別では、多くの地点が $1\sim 2\mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲で推移した。市原市岩崎西は濃度が高く、23、28年度と環境基準を超過し、市原市旧河岸も23年度に環境基準を超過した。ここ数年濃度が上昇傾向にあるのは市原市岩崎西、千葉市中央区今井、市原市今井、市原市姉崎、松戸市上本郷であった。



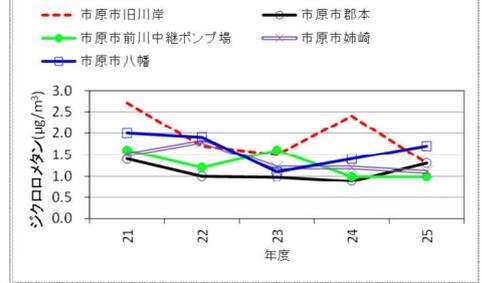
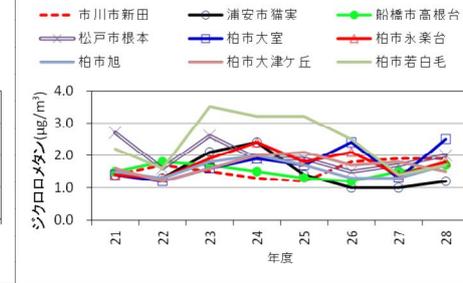
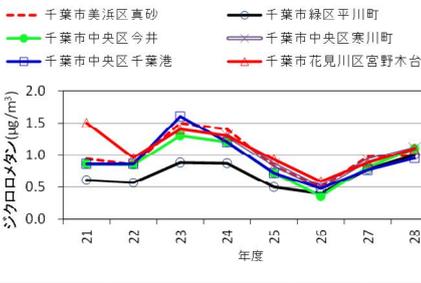
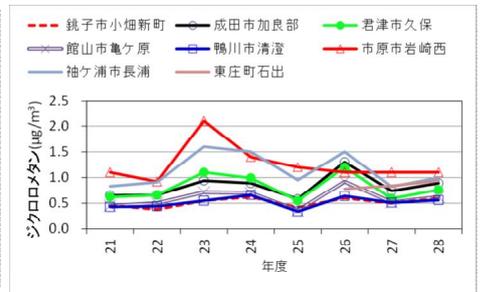
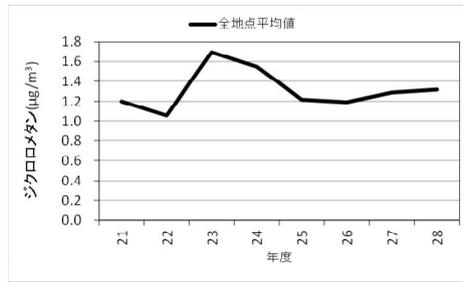
トリクロロエチレン:全地点平均では平成23年度をピークに減少傾向にある。地点別では、市原市旧河岸の濃度が27年度までは他地点より高く推移した。28年度は松戸市根本が $1.0\mu\text{g}/\text{m}^3$ と最高濃度となった。



テトラクロロエチレン:トリクロロエチレン同様、全地点平均では平成23年度をピークに減少傾向にある。地点別では、市原市旧河岸の濃度が27年度までは他地点より高く推移した。28年度は松戸市根本が $0.3\mu\text{g}/\text{m}^3$ と最高濃度となった。

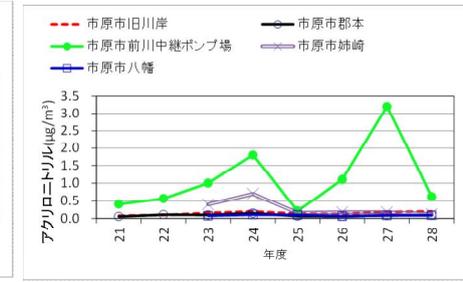
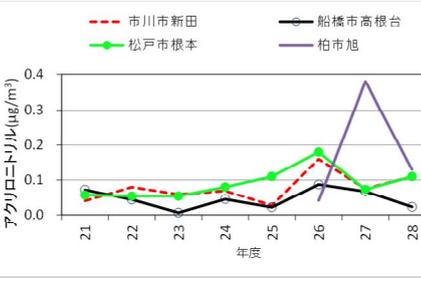
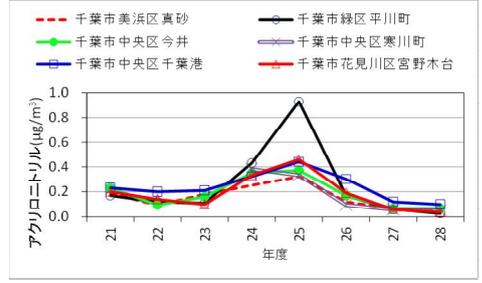
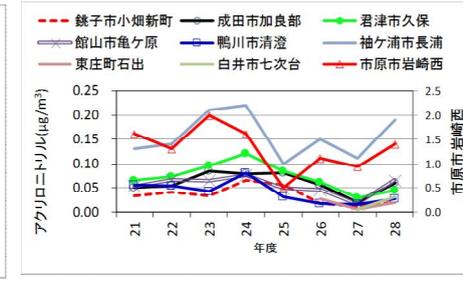
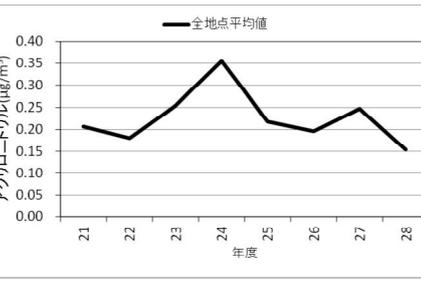


ジクロロメタン:全地点平均では、平成23、24年度に濃度が上昇し、25年度からはほぼ横ばいの状況である。千葉市測定地点、市原市岩崎西が全地点平均とほぼ同じ動きを示した。



指針値が設定されている9物質の経年推移(測定実施機関毎にグラフを作成)

アクリロニトリル:全地点平均では平成24年をピークに低下傾向にある。地点別では市原市岩崎西、市原市前川中継ポンプ場の濃度が他地点に比べ高く、市原市前川中継ポンプ場は27年度に指針値($3.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$)を超える濃度を示した。25年度以降低下傾向にある地点が多いが、袖ヶ浦市長浦、市原市岩崎西は上昇傾向にある。



塩化ビニルモノマー:全地点平均では平成22年度をピークに25年度にかけて大きく減少したが、それ以降は上昇傾向にある。地点別では、市原市岩崎西、市原市旧河岸が他地点に比べ高く傾向が見られた。地点毎の推移は変動が大きく、一定の傾向は見られなかった。

